

ヒットネット[HITNET] ミニ企画展

第13回

創業の想いを引き継ぎ、 得意な分野で社会を支える —日本の産業技術—



ミツトヨ測定博物館



本多電子
超音波科学館



島津製作所
創業記念資料館



倉紡記念館

●はじめに

国立科学博物館では日本の産業技術系博物館の資料を検索できる「HITNET（ヒットネット＝産業技術史資料共通データベース）」を公開しています。

本展示では、「創業の想いを引き継ぎ、得意な分野で社会を支える」をテーマとして、4つの博物館を紹介します。各館の母体となるそれぞれの企業で積み重ねてこられた得意な技術の領域とその歴史の奥深さをお楽しみください。

国立科学博物館

産業技術史資料情報センター

●Foreword

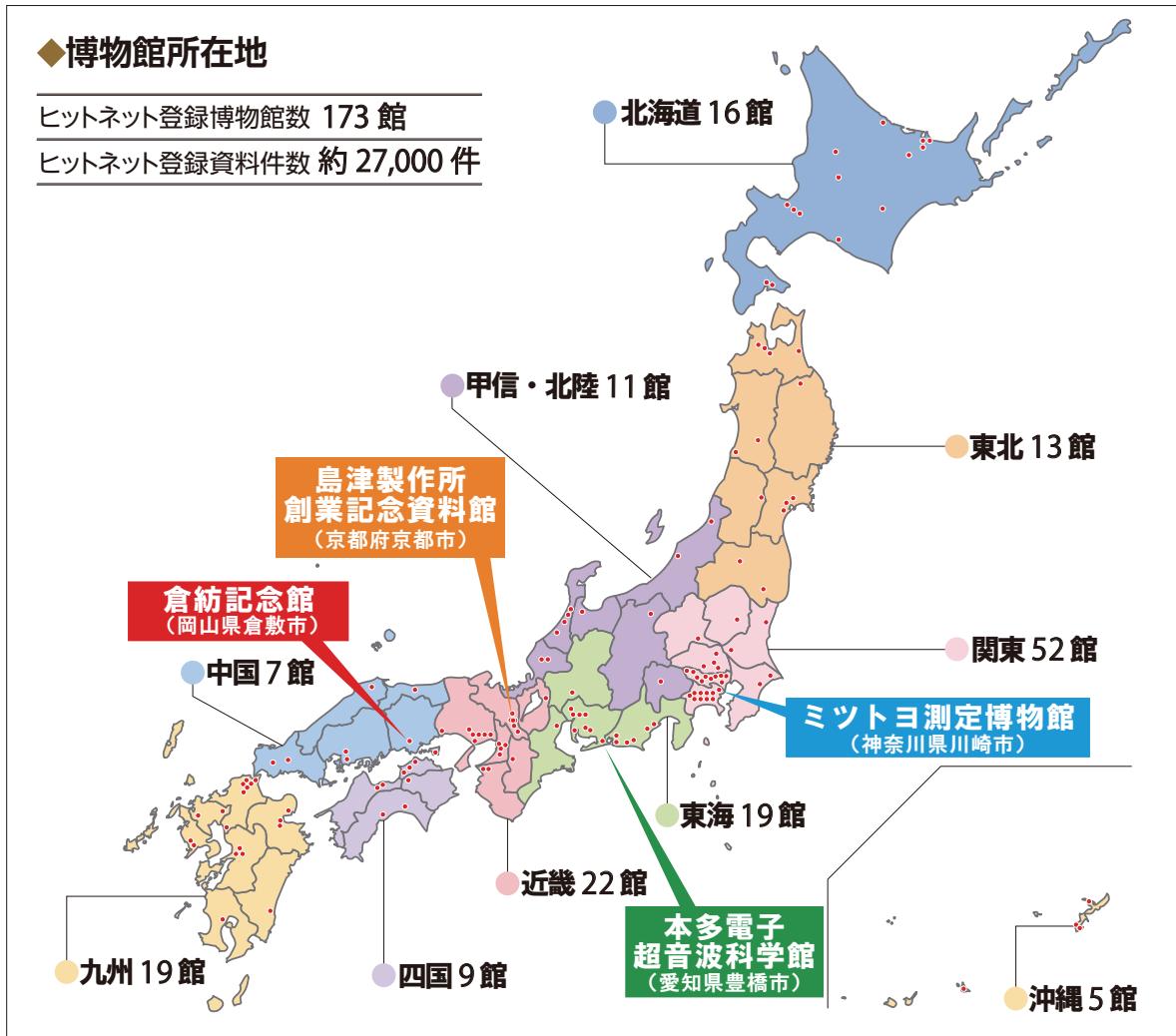
The National Museum of Nature and Science has made "HITNET" (Archives of History of Industrial Technologies Networking Japanese Industrial Museums) publicly available, enabling searches of materials from Japan's industrial technology museums.

The exhibition introduces four museums as the main theme of "Industrial technologies that carry forward the passionate dreams of their founding era and support modern society through their areas of expertise." We invite you to enjoy the specialized technical expertise and rich history cultivated over time by each of the companies operating each of these museums.

The Center for the History of Japanese Industrial Technology
National Museum of Nature and Science

●ヒットネットの登録博物館

ヒットネットに登録している産業系博物館などは、地方自治体が運営するもの、企業、学校、各種協会・財団などの団体が運営するものなど様々な形態があります。それぞれ興味深い展示を行っています。ぜひ一度、現地を訪ねて実物資料をご覧ください。



東北大學綜合學術博物館／電気の史料館／北海道博物館／パソニックミュージアム／松下幸之助歴史館／東芝未来科学館／シャープミュージアム／リタケミュージアム／東京理科大学近代科学資料館／和銅博物館／横河電機（横河アーカイブズ）／公益財団法人竹中大工道具館／トヨタ博物館／五十嵐健治記念洗濯資料館（白洋舎）／石川県立航空プラザ／花王ミュージアム／紙の博物館／吳市海事歴史科学館／大和ミュージアム／マツダミュージアム／三菱オートギャラリー／ヤマハ発動機コミュニケーションセンター／マツダミュージアム／三井オートギャラリー／スバルビザンテーション／日野オートプラザ／お札と切手の博物館／スバルビザンテーション／日産エンジンミュージアム／セイコ、ミュージアム／銀座／神戸大学海事博物館／日本ペイント歴史館／日本ペイント明治記念館／Honda Collection Hall／東京都計量検定所計量展示室／味の素 KK 川崎事業所資料展示室／神戸海洋博物館／日本カメラ博物館／中富記念室／宮崎大学農業部附属農業博物館／武蔵野音楽大学楽器ミュージアム／家具の博物館／GAS MUSEUM／がす資料館／日産ヘリテージコレクション／消防博物館（東京消防庁消防防災資料センター）／TDK 歴史みらい館／山形謹写印刷資料館／物流博物館／日本のあかり博物館／貨物铁道博物館／伊能忠敬記念館／倉紡記念館／日本新聞博物館／佐賀県立九州陶磁文化館／三菱重工長崎造船所史料館／日本工业大学工業技術博物館／ナガイ靴下博物館／スズキ歴史館（SUZUKI PLAZA）／シングルトン記念館／四国自動車博物館／京セラファインセラミック館／KYB 史料館／電卓の歴史コーナー／いの町紙の博物館／那覇市伝統工芸館／所沢航空発祥記念館／公益財団法人中田俊男記念財団牛乳博物館／まほびん記念館／一般財団法人清水港湾博物館／東京都水道歴史館／明治薬科大学明薬資料館／小樽市総合博物館／MIZKAN MUSEUM／住友化学愛媛工場歴史資料館／たばこと塩の博物館／齒の博物館／UEC コミュニケーションミュージアム／直方市石炭記念館／北見ハッカ記念館／北見薄荷蒸留館／金沢蓄音器館／航空科学博物館／尚古集成館／UCC コーヒー博物館／焼津漁業資料館／新聞博物館（熊本日日新聞社）／ALPS Museum 未来工房／網走市立郷土博物館／リサイクルプラザ紙遊館／島津製作所 創業記念資料館／土とトラクタの博物館「土の館」／瀬戸蔵ミュージアム／那覇市立壺屋焼物博物館／生物系特定産業技術研究支援センター農業機械化研究所資料館／TOTO ミュージアム／熊本大学五高記念館／熊本大学工学部研究資料館／日本郵船歴史博物館／櫻尾俊雄発明記念館／門司電気通信レコード館／観音寺市郷土資料館分館豊浜郷土資料館／琴平海洋会館（海の科学館）／めがねミュージアム／明治大学博物館／丸亀うわわミュージアム／仙台市歴史民俗資料館／スリーエム仙台市科学館／石川県金沢港大野からくり記念館／金沢大学資料館／市立函館博物館／長崎大学付属図書館／フジフィルム スクエア真歴史博物館／ニッスキハイオニア館／北九州イノベーションギャラリー（KIGS）／ZENRIN MUSEUM／月桂冠大倉記念館／阿波池田たけこ資料館／函館市青函連絡船記念館摩周丸／橋の科学館／四国鉄道文化館／鉄道博物館／雪印メグミルク酪農と乳の歴史館／赤穗市立海洋科学館／塩の国／内藤記念くすり博物館／三木市立骨物資料館／ヤンマーミュージアム／磐田市香りの博物館／青森県立三沢航空科学館／青森市森林博物館／あおもりのまほろば歴史館／大分香りの博物館／トヨタ産業技術記念館／別府市竹細工伝統産業会館／琵琶湖疏水記念館／秋田県立農業科学館／和歌山市立博物館／大牟田市石炭産業科学館／鳥取二十世紀梨記念館／宮古島市総合博物館／福島県立博物館／印傳博物館／二戸市シビックセンター田中館愛橋記念科学館／北海道立北方民族博物館／山口県立山口博物館／京都大学化学研究所碧水会／美祢市歴史民俗資料館／清水建設株式会社技術研究所・建設技術歴史展示室／郵政博物館／福井県立こども歴史文化館／フランチャミュージアム／松栄堂／薫習館／絆別市立博物館／東京農業大学生物生産学部図書館／天童浜名湖鉄道 鉄道歴史館／ヤマハ株式会社イノベーションロード／東京農業大学「食と農」の博物館／京都鉄道博物館／吉田富三記念館／きつき城下町資料館／浜松市楽器博物館／津軽三味線会館／ピート資料館／新冠町聴体験文化交流館／レコード館／オリンパスミュージアム／首里染織館 suikarn／マルキン醤油記念館／海洋文化館／カクキュー八丁味噌（八丁味噌の郷）／開拓記念館／中札内村豆資料館ビーンズ郎／堺伝匠館／燕市産業史料館／JX 金属グループ 日鉛記念館／シマセイキ フュージョンミュージアム／本多電子 超音波科学館／国立科学博物館

産業技術史資料共通データベース ヒットネット[HITNET]

Archives of History of Industrial Technologies Networking Japanese Industrial Museums

●ヒットネットとは

国立科学博物館では、日本の産業系博物館などの展示を検索できるデータベース「ヒットネット(HITNET)」を公開しています。ヒットネットには、日本全国にある産業系博物館などが所蔵する「産業技術史資料」が数多く登録されています。これらの産業技術史資料から、私たちの生活を豊かにしている産業技術やその歴史を見ることができます。

●産業系博物館の展示分野

◆映像・情報、コンピューター



ウォークマン



卓上電話機

◆電気、電力



ガス自動炊飯器



ロータリースイッチ

ヒットネット



◆産業用、業務用機器他



足踏式木製旋盤



ボール盤

◆自動車・船等、汎用機械



キハ65型急行用気動車



客船模型「浅間丸」

◆金属



南部鉄器



現代刀

◆化学、印刷



レンズ付フィルム



化学天秤

◆繊維・紙・木製品



絹紗織機



糸車

◆鉱業、建設、窯業



明石海峡大橋
ケーブル&ケーブルバンド



色絵梅花寫文瓶

◆食品、農林漁業



蒸気トラクター



大倉式猪口付き壺

◆その他、サービス業等



六分儀



手回し洗濯機

ミツトヨ測定博物館

《神奈川県川崎市》
Mitutoyo Museum of Metrology

産業の発展を支える精密測定機器の専門博物館

Museum specialized in precision measuring instruments
contributing the industrial development



ミツトヨ測定博物館 外観

ご利用案内

- 住所 神奈川県川崎市高津区坂戸1-20-1
- 電話 044-813-8204
- 開館時間 10:00~17:00 (入館は16:00まで完全予約制)
- 休館日 土曜・日曜・祝日及び会社休日
- 入館料 無料



ミツトヨの歩みと精密測定機器のルーツと変遷を辿る

ミツトヨ測定博物館は産業の発展を支える精密測定機器に特化し、その進化の歴史を展示したユニークな専門博物館で「沼田記念館」と「測定機器館」で構成されています。

沼田記念館ではミツトヨ創業(1934年)以来の歩みと精密測定機器の進化の歴史を、測定機器館では世界の長さ測定機器を中心としたルーツと変遷を知ることができます。

当館サイト内にバーチャルミュージアムを用意しておりますので、事前にご覧頂けます。

また、当博物館の収蔵物は経済産業省より、「近代化産業遺産群」として認定されています。

Let us trace the journey of Mitutoyo, uncovering the roots of precision measuring instruments and their historical evolution

The Mitutoyo Museum of Metrology is a unique specialized museum dedicated to precision measuring instruments that have supported industrial development, showcasing their evolutionary history. It consists of the Numata Commemorative Hall and the Measuring Instrument Hall.

At the Numata Commemorative Hall, you can learn about the history of Mitutoyo since its founding in 1934 and the evolution of precision measuring instruments. At the Measuring Instrument Hall, you can discover the origins and technological evolution of length measuring instruments from around the world.

Please note that a virtual museum is permanently available on our website, allowing you to preview the content in advance.

Furthermore, the museum's collection has been designated by the Ministry of Economy, Trade and Industry as part of the "Heritage of Industrial Modernization."



沼田記念館 内観



測定機器館 内観

沼田記念館

1934(昭和9)年の創業以来、産業界のニーズに応えるため精密測定機器ひと筋に製品の開発・改良に取り組んできたミツトヨの歴史は、日本の精密測定機器の歴史でもあります。沼田記念館はミツトヨ創業の理念と製品開発の歩みを展示しています。

●ミツトヨの原点蒲田工場

1930(昭和5)年、米国カリフォルニア大学バークレー校(UCB)留学から帰国した沼田惠範は「内閣資源局統計官」として奉職しましたが、1934(昭和9)年、マイクロメータ国産化をめざし研究所を開所、その後2年後に蒲田工場を開設し「三豊製作所」が誕生しました。



当時の蒲田工場の模型

●マイクロメータの国産化

マイクロメータの国産化試作は1936(昭和11)年12月に成功し、販売を目的とした最初のロット100個が完成しました。この100個のうち厳しく設定したミツトヨの品質基準に合格した17個だけを販売用として残し、あとの83個は基準に満たなかったため工場の床下に埋めました。検査を甘くして品質、性能を落とすようなことは絶対にしないという決意を示しました。第1号のマイクロメータは「沼田記念館」で現物展示しています。

現在に至るまでにアナログからデジタル表示へ、機能向上(クーラントブルーフ)・測定効率向上、更に高精度化(0.1μm)測定を実現するなど、マイクロメータを革新し続けています。



ミツトヨ第1号のマイクロメータ

測定機器館

測定機器館は、広く世界から集めた測定機器の歴史的資料や製品などを展示しています。なかでもミツトヨOBの須賀信夫氏から寄贈された世界の測定器約320点は、大変貴重で歴史的価値があります。また「長さの基準が統一された歴史」そして「産業発展を支えた精密測定機器の変遷」などを学ぶことができます。

●測長器

ウィットワース(Whitworth)大型測長器は、19世紀半ばにイギリスの技術者ウィットワースが作ったねじ式測長器で、機械工作によって作られた基準器などの評価を行う測長器として使用された、重要な産業遺産です。

この測長器によって1/100,000インチ(0.00025 mm)の細かさで長さ1.8 mまで測る事ができます。現在、日本ではミツトヨ測定博物館だけに展示されています。



ウィットワース(英)の大型測長器(1850年製)

●須賀コレクション

米国ミツトヨの副社長を務めた須賀信夫氏は、世界中の測定工具の蒐集と考察を行いました。蒐集された膨大な数の測定工具は歴史的にも大変貴重な資料であり、須賀氏の情熱とロマンとともにミツトヨ測定博物館に寄贈されました。



世界初のダイヤルゲージ(1883年 米・ウォルサム社製)



初期のマイクロメータ、ノギスなど

TOPICS

ものづくりにおける精密測定の必要性

工業製品をつくる過程では材料の調達から加工、組み立て、検品、出荷にいたるまで、設計図にもとづき、同一の基準により測定をおこなうことで製品の「品質を保証する」ことができます。測定をおろそかにすると、品質が保てなくなり、不良品が完成品に組み込まれた場合は故障や事故の原因となり、最悪の場合は人命に影響する場合があります。

したがって、ものづくりの過程において、日々、高精度化する工業技術に対応できる「測定」は大変重要なことです。

館内にはこれらを実現するために開発されてきた測定機器として、三次元座標測定機、画像測定機、形状測定機などを展示しています。

精密測定の信頼性を保証するために、国家標準とのトレーサビリティを確保する必要があります。そのため、ミツトヨは光周波数コム装置を自社開発しています。更に、グローバルな国際相互認証の制度によって世界に通用する精度が保証されています。

また、測定機器館には測定器(ノギス・マイクロメータ)に触れて測定できる測定体験コーナーもあります。

ものづくりにおける測定の現場



自動車ボディの三次元座標測定の事例

測定体験コーナー



測定体験 0.001mm(=1μm)の世界を体験しよう!

本多電子 超音波科学館

《愛知県豊橋市》
HONDA ELECTRONICS Ultrasonic Science Museum



本多電子株式会社 本社全景

ご利用案内

- 住所 愛知県豊橋市大岩町小山塚20
- 電話 0532-41-2511
- 開館時間 午前10:00～午後4:00
- 休館日 土・日・祝日、夏季休暇、年末年始
- 入館料 無料



超音波技術の可能性

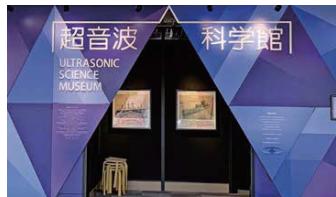
1956年、創業者・本多敬介は、世界で最も早い時期にトランジスタを採用した小型魚群探知機の開発に着手しました。魚群探知機の製品化を皮切りに、超音波洗浄機、超音波計測機器、超音波画像診断装置などを展開。さらに、超音波の要となる圧電セラミックスの研究開発・製造にも取り組み、幅広い分野での製品化を進めてきました。

本社1階に常設された超音波科学館では、超音波の基礎を動画やパネルで解説し、超音波の原理を身近に感じられるように工夫されています。主要製品や要素技術の展示に加え、体験型コンテンツを通じて、超音波の面白さや不思議さを楽しみながら、それらを生み出す技術の無限の可能性を体感してください。

The infinite possibilities of ultrasound technology

In 1956, our founder, Keisuke Honda, pioneered the development of a compact fish finder that utilized transistors—it was among the world's earliest. Starting with the commercialization of fish finder, we expanded into ultrasonic cleaning equipment, ultrasonic measuring instruments, and ultrasound diagnostic imaging devices. Furthermore, we engaged in research, development, and manufacturing of piezoelectric ceramics, which are essential part of ultrasound technology, promoting products development across a wide range of industries. At Ultrasonic Science Museum, permanently located on the first floor of our company headquarters, explaining the fundamentals of ultrasound technology through videos and panels to help understanding and experience with the principles of ultrasound.

In addition to exhibits of major products of HONDA ELECTRONICS and core technologies, interactive content can allow visitors to enjoy the fascinating and mysterious experience of ultrasound working with the infinite possibilities of technology which create them.



超音波科学館 エントランス



館内の風景

「聞こえない音」を見て、触れて、わくわく体感!

Unheard sound you can see, touch and feel with ultrasound,
the technology of wonder!

TOPICS

キーテクノロジー「超音波デバイス」

本多電子は、創業期に京都大学の田中哲郎博士にご指導を頂き、超音波を発生させる圧電素材(圧電セラミックス、圧電高分子膜、圧電薄膜)の研究開発から生産までを一貫して手がけ、今日では幅広い分野における超音波応用技術を支えています。超音波の応用には、センサとして使用する情報的応用と、振動そのものを使用する動的応用があり、目的や使用環境に応じて、求められる電気特性や振動特性、使用周波数が異なります。10MHz以下の周波数帯では鉛を主成分とする圧電材料が一般的ですが、当社では環境に配慮し無鉛材料をベースとした新規組成系による実用的な圧電セラミックスの開発に取り組んでいます。あわせて、電気特性の向上にも日々努めています。

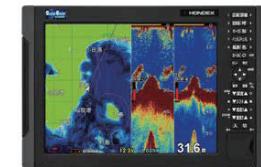


動物用超音波画像診断装置
動物の妊娠画像や血流画像を観察できるバッテリ駆動のコンパクトモデル



トランジスタ式魚群探知機

現在の魚群探知機は記録式表示機からブラウン管、液晶へと進化し、GPSプロッター機能を搭載することで現在地の把握も可能となりました。さらに、顧客ニーズに応え、一般的な魚群探知機と同等価格で購入できる全方位魚群探知機やワカサギ釣り専用魚群探知機などをラインナップ。本多電子の「HONDEX」魚群探知機は、漁業からレジャーフィッシングまで幅広く活用されています。



現在の魚群探知機 GPSプロッターフish群探知機
自船位置を表示するGPSプロッターモード機能と
魚群探知機が1台で使用できる



ソナー
自船の全周を一度に探知する全方位魚群探知機

音で「みる」／振動の「エネルギー」

「魚群探知機」をはじめとして、超音波の反射情報を利用して目に見えない内部を「みる」ことができる製品には、超音波画像診断装置(エコー)や各種計測機器など、さまざまなものがあります。



今後の活用が期待されている画期的な製品のひとつに、「医用超音波顕微鏡」があります。この装置は、生きたままの細胞の断層像を観察できるほか、超音波の反射強度や音速の変化から対象物の硬さを可視化できる点が特徴です。薬物投与による細胞の硬さの変化の確認、がん組織の特定検査、再生医療における細胞の分化の確認、肌の弾性率検査など、主に医療分野での応用が期待されています。非侵襲かつリアルタイムでの観察が可能なこの技術は、診断精度の向上と患者負担の軽減に貢献する次世代の医療機器として注目されています。



医用超音波顕微鏡
生きたままの細胞の硬さを観察することができる



超音波浮揚
超音波で物が浮く

一方、超音波振動の「エネルギー」を活用する製品も多岐にわたります。たとえば、水を振動させて汚れを落とす超音波洗浄機、刃先に振動を与えて切れ味を高める超音波カッター、振動によって摩擦熱を発生させて溶着する超音波溶着器などが挙げられます。

なかでも興味深い要素技術として「超音波浮揚」があります。これは、音源となる振動部と反射板を平行に配置し、定在波の節の位置に物体を浮揚させる技術です。



無鉛圧電セラミックス
次世代の超音波デバイス



超音波カッター
無鉛圧電セラミックスを採用した環境配慮型
ホビー用超音波カッター[ZO-60]



超音波流量計
高温に耐えられる独自センサを搭載し、流体温度200°Cまでの計測が可能な半導体製造装置向け流量計



高周波超音波洗浄機
半導体製造におけるウェーハやフォトマスクの洗浄に使用される、独自の石英振動体型超音波洗浄機

島津製作所 創業記念資料館

Shimadzu Foundation Memorial Museum

《京都府京都市》



島津製作所 創業記念資料館 外観

「科学技術で社会に貢献する」精神を今に伝える

島津製作所は1875年、京都の近代化の中心地である木屋町二条の地で教育用理化学器械の製造・販売事業を興しました。

当館は創業100年を記念し、創業者である初代と二代目島津源蔵の遺徳を偲び開設。2025年には創業150年、開館50年を迎えていきます。館内には、創業以来の教育用理化学器械、医療用X線装置や産業機器はじめ事業活動に関連する文献・資料などを展示しており、島津製作所の歩みと共に日本の近代科学技術の発展過程をご覧いただけます。

Carrying forward the spirit of “contributing to society through science and technology”

In 1875, Shimadzu Corporation established its business manufacturing and selling educational physics and chemistry instruments in Kiyamachi Nijo district, the heart of Kyoto's modernization.

This museum was established to commemorate the 100th anniversary of the company's founding and to honor the legacy of its founders, the first and second generations of Genzo Shimadzu. In 2025, we celebrate our 150th anniversary and the 50th anniversary of our opening. We exhibit a wide range of documents and materials dating back to the company's founding, including educational scientific instruments, medical X-ray equipment, and industrial machinery. Visitors can trace the development of modern science and technology in Japan alongside the history of Shimadzu Corporation.



ウイムシャースト感応起電機



創業者居室

日本近代産業の歴史がここに

ここ木屋町二条の地はかつて高瀬川・一之舟入を中心に入や物資が行き交う交通の要衝であり、明治期には日本初の路面電車が走るなど、京都の近代化を象徴する地域でした。

島津製作所は1875年の創業から1919年までの44年間、この地に本店兼住居を構えており、その建物は現在「登録有形文化財」に指定されています。

館内には創業者の居室や当時のステンドグラスなどが残されており、京都のモダン建築の一つとして親しまれています。

展示品をはじめ製品・文献など約11,000点を収藏しており、島津製作所、ひいては日本の近代産業の歩みを物語る貴重な資料群です。



教育用理化学器械の展示

京都の近代化と島津製作所

明治初期の京都は禁門の変による大火と東京奠都の影響で荒廃が進んでいました。立て直しを図るため、京都府は教育と産業の振興を「科学の力」で推進しようと考え、その一環として有人の軽気球を揚げて府民に披露する計画を立てます。

この依頼を受けた初代島津源蔵は、十分な資料のない中で試行錯誤を重ね、水素気球の製作に成功。1877年12月6日、京都・仙洞御所での打ち上げに成功し、理化学に対する府民の関心を高めました。



京都・仙洞御所で揚げられた軽気球(1877年)

近代日本の科学・技術の歴史をたどる

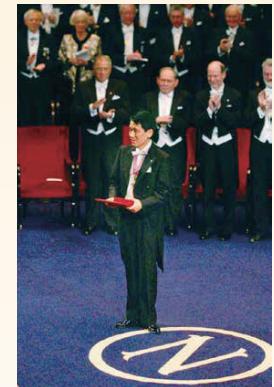
Tracing the historical evolution of science and technology in modern Japan

TOPICS

「科学技術で社会に貢献する」

初代島津源蔵が「科学立国」の理想を掲げて業を興してから150年余。島津製作所は現在国内外で約80社、従業員14,000人を超える企業グループに発展しました。

社是「科学技術で社会に貢献する」は、創業時の精神として今も企業活動の根幹に息づいています。今日では、分析計測機器、医用機器、航空・産業機器を中心に、次世代医療、産業計測、環境・エネルギーなど幅広い分野で人々の生活を支えています。



田中耕一、ノーベル化学賞を受賞（2002年）
[生体高分子の質量分析法のための穂密な脱着イオン化法]

科学・技術の研鑽、啓蒙への情熱

家業である仏具の鋳物業で技を磨いた初代島津源蔵は、1875年、教育用理化学器械の製造を始めました。近隣にあつた京都舍密局でお雇い外国人のワグネル氏らに学び、輸入品の修理を通じて技術を習得していきます。科学知識の習得や器械の製作は容易ではありませんでしたが、源蔵は博覧会への出品や、当時としては珍しい科学啓蒙誌の発刊などを通じ、科学技術の普及と発展に尽力しました。



理化学の発展に貢献する目的で1886年に発刊された
「理化学的工芸雑誌」

その志を継いだ2代目源蔵は、医療、研究、産業用の機器など次々と新分野へ挑戦を続け、事業を大きく発展させます。特に力を注いだのは、X線と蓄電池の開発です。レントゲン博士のX線の発見からわずか11ヶ月後にはX線写真の撮影に成功し、その後国産初の医療用X線装置を完成させました。さらに蓄電池では「易反応性鉛粉製造法」を発明し、1930年には日本の十代発明家の1人に選ばれています。現在、この蓄電池事業は株式会社ジース・ユアサコーポレーションに引き継がれています。



標本部の作業風景
明治28年に標本部を開設。人体模型や剥製などを手がけ、博物学の普及にも貢献した。



100億年に1秒の誤差の精度を実現した
ストロンチウム光格子時計（2025年）

[本研究成果は、東京大学の香取秀樹チームリーダーの下、日本学術振興会（JSPS）利府費特別推進研究（JP16H05284）および科学技術振興機構（JST）未来社会創造事業「クラウド光格子時計による時空問問情報基盤の構築」（JPVUW18A1）の一部支援を受けて行われた。]

倉紡記念館

《岡山県倉敷市》

Kurabo Memorial Hall

創業時の想いが、今も社会を支える活動の原点に

The founding spirit remains the unwavering origin
of our activities at Kurabo, supporting society to this day



倉紡記念館 外観

ご利用案内

●住所 岡山県倉敷市本町7-1
(倉敷アイビースクエアの敷地内)

●電話 086-422-0011

●開館時間 AM10:00～PM4:00
(入館はPM3:45まで)

●休館日 年中無休
※但し、開館時間の変更や臨時休館する場合があります。

●入館料 個人一般 300円 / 学生 250円
団体一般 250円 / 学生 200円
※団体は30名様以上となります。
※詳しくはホームページをご覧ください

歴史が息づく空間で、クラボウの138年の軌跡をたどる

倉紡記念館は、1888年にクラボウ（倉敷紡績株式会社）が創立された当時に建てられた「倉敷本社工場の原綿倉庫」を活用し、企業記念館としてリノベーションされた施設です。この建物は、明治時代の面影を色濃く残しており、趣のある空間が広がっています。

館内では、日本の紡績産業の発展を背景に、クラボウの創業から現在に至るまでの歩みを、映像・写真・模型・文書・データベースなど多彩な展示物を通じて紹介しています。またレプリカではなく当時の現物が多いのも特長です。産業史に興味のある方はもちろん、教育や観光の一環としても楽しめる内容となっており、倉敷の歴史と日本のものづくりの精神を感じられる、貴重な学びの場です。

In the space where the history lives on, trace Kurabo's 138-year journey

The Kurabo Memorial Hall is a facility renovated as a corporate museum, utilizing the "raw cotton warehouse of the Kurashiki Spinning Works headquarters factory" originally built when Kurabo (Kurabo Industries Ltd.) was founded in 1888. This building retains a strong sense of the Meiji era, creating a charming atmosphere throughout its spaces.

Within this memorial hall, the journey of Kurabo from its founding to the present day is introduced through diverse exhibits including videos, photographs, models, documents, and databases, set against the backdrop of the development of Japan's textile industry. Another feature of this hall is that it displays many original artifacts from the period rather than replicas. This hall offers content that will appeal not only to those interested in industrial history but also as part of educational or tourism activities. It provides a valuable learning experience where visitors can feel the history of Kurashiki and the spirit of Japanese craftsmanship.



倉紡記念館 第1室

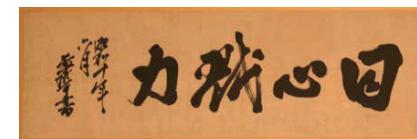


倉紡記念館 第2室

現代のSDGsに通じる創業時の想い

[創業者・大原孝四郎]

クラボウの創業者、大原孝四郎は、地域の発展と貧困に苦しむ人々の生活向上を強く願い、その志のもとにクラボウを設立しました。その際、彼は「同心戮力（一人一人の働きや才能が異なっても、目的を達成するために、皆が心を一つに協力しようという意味）」を社是に掲げ、社内の和と团结を第一とし、若手社員でもその力を十二分に發揮できるよう職場環境づくりに専念しました。



社是「同心戮力」

[第2代社長・大原孫三郎]

その想いは息子であり第2代社長の大原孫三郎に受け継がれ、彼は「労働理想主義」のもと、労働環境を科学的に分析し改善する取り組みや、快適な宿舎の整備など福利厚生の充実に尽力しました。また病院や美術館の設立、さらには社会問題を研究する機関の創設など地域社会への幅広い貢献も実現しました。



従来の雑居型の集合宿舎を改善した社員のための分散寄宿舎



大原孫三郎の活動を紹介

このように、「人を大切にし、地域社会に根ざした企業活動を行う」姿勢は、現代のSDGs（持続可能な開発目標）に通じるものであり、持続可能な社会の構築に向けた先駆的な取り組みとして近年高く評価されています。

祖業の繊維事業を中心に様々な事業に展開

クラボウは、人や社会の変化に応じて事業の発展と事業領域の拡大を続けてきました。繊維事業では、当社の独自技術を活かした高付加価値素材を開発し、環境負荷低減にも取り組んでいます。



環境負荷低減にも取り組む繊維事業の染色加工工場

また、繊維事業で培った技術を活かして誕生した化成品・エンジニアリング・エレクトロニクスやバイオメディカルの事業でも、それぞれの技術を活かした製品やサービスを展開しています。

- ・化成品では加工・成形技術や樹脂の配合技術を活かして半導体製造関連の高機能樹脂製品や自動車内装材、住宅建材などを提供。
- ・エンジニアリング事業では、排水・排煙・焼却処理などの環境プラント技術を基盤に、バイオマス発電分野に進出。
- ・エレクトロニクス事業では、色のセンシング技術を軸に検査・計測・調色システムやロボットビジョンセンサーを開発。
- ・バイオメディカル事業では、創薬や診断・治療の研究開発を支援する製品やサービスを提供。

この他にも、食品・サービス事業や不動産事業など、幅広い分野で事業を展開していますが、これらの事業は創業時から続く「人や社会を大切にする」という理念に根ざしています。



事業領域を広げ、暮らしや産業を広く支える

TOPICS

新たな認定とG7の来館

[日本労働遺産認定]

倉紡記念館は、その歴史的価値が認められ、これまでに以下の認定を受けています。

- ・1998年：登録有形文化財（文化庁より）
- ・2007年：近代化産業遺産（経済産業省より）
- ・2017年：日本遺産（文化庁より）＊倉敷市の繊維産業発展のストーリーの構成文化財として
- ・2023年：日本労働遺産（日本労働ペンクラブより）



日本労働遺産として認定された展示物
左:肺活量計、右上:空気分析機器、右下:労働科学研究(レポート)

[G7参加国が見学]

2023年に関係会社の倉敷アイビースクエアにてG7倉敷労働雇用大臣会合が開催されました。そのエクスカーションとして、G7参加国の大臣等が倉紡記念館を見学されました。



G7倉敷労働雇用大臣会合の際、倉紡記念館を見学
(写真提供: 厚生労働省)